

第4回 オペラが上演されるまで

ー メイキング・オブ・『ラ・ボエーム』 ー



令和5年6月3日の公演より（宇都宮市文化会館小ホール）

本年6月3日（土）に、第44回宇都宮市民芸術祭参加 栃木県オペラ協会 2023 公演『オペラの祭典Ⅱ』が実施されました。

今回は、第1部が「チェンバロと奏でるオペラ名曲集」と題し、宇都宮市文化会館所蔵のチェンバロを使って、バロック時代のオペラアリアや重唱を中心に演奏しました。また第2部では、プッチーニ作曲オペラ『ラ・ボエーム』をハイライトで原語上演いたしました。新進気鋭の演出家 塙 翔平氏の演出と、荒井雄貴氏（荒井音楽企画）制作のプロジェクト・マッピングを使った美しい舞台は、会場を魅了しました。

さて、私ども「栃木県オペラ協会」は、年間、様々な活動を行っております。

栃木県オペラ協会の年間活動内容

- 自主公演 6月（宇都宮市民芸術祭参加）
- 委託による芸術鑑賞会
 - ・「いきいき音楽体験事業」 10月（学校巡回公演 6校）
 - ・「宇都宮市ふれあい文化教室」 随時
- 地域連携事業
 - ・栃木県楽友協会演奏会への協力 12月
（「ベートーヴェン交響曲第9番 合唱付き」へのソリスト出演・合唱指導）
- 地域貢献活動 随時（地域のファミリー・コンサート等）

他

この中でも我々にとって一番大きな行事は、毎年6月に行われる宇都宮市民芸術祭参加の自主公演です。約6か月をかけて準備します。練習の成果を発表する大切な公演になります。

ということで、今回の「よもやま話」は、この自主公演がどのように準備され上演されるのかを、6月の『ラ・ボエーム』の場合を例にご紹介したいと思います。

なお、作曲者プッチーニについては、「よもやま話」第1回でも取り上げておりますのでそちらもぜひご覧ください。

○公演までの流れ

公演までの流れは大体次のようなものです。

①企画（演目決定・予算作成・スケジュール作成・演奏会場、稽古場の確保・指揮者、演出家選定・出演者決定）

↓

②練習（譜読み・音楽稽古・立ち稽古）

スタッフ打合せ（大道具、小道具・衣裳・メイク・照明・舞台）

↓

③仕込み・場当たり・GP（ゲネプロ）・本番

※企画から本番まで約6か月

①企画

公演企画は、協会員の中から選ばれた運営委員が中心になって行います。上記のように実に様々な事を決めなければなりません。会員の希望も考慮し、当日聴きにきてくださるお客様に満足していただけるような充実した公演になるよう意見を出し合い相談します。

10月の学校巡回公演が終わった後から定期的に運営委員会を開いて決めていきます。

②練習・スタッフ打合せ（同時進行）

年明け1月中に出演者と演出家が決まり（今回は、ピアノ伴奏で指揮者なしの公演となりました。）、いよいよ練習に入ります。オペラ協会のメンバーは、ほとんどが音楽大学等で専門教育を受けていますが、普段は別の職業をもって生活している人がほとんどです。そのため、練習は週末の土、日に行うことが多く、今回は2月から6月3日の本番まで、全部で14回練習が組まれました。1回の練習時間は4時間程度です。

ウィーンの「国立歌劇場」やイタリアミラノの「スカラ座」、アメリカニューヨークの「メトロポリタン歌劇場」などの世界的な劇場では、シーズン中は毎晩のように公演がありますので、練習はほとんど行わず、簡単な打合せ程度で本番を迎えることも多いようです。時にはぶっつけ本番の時もあるとか・・・もともと、出演する歌手も世界中でその役を何度も歌っていて、完全に自分のものになっているので、そんなに練習する必要もな

いでしょう。(やはり超一流のプロはスゴイ！！)

しかし、我々はそんな一流のプロのようなわけにはいきません。何回も練習をして歌と演技を練り上げ、本番でようやく皆様の前にご披露できるレベルまでもっていきます。

では、ここで我々の練習の様子をご紹介します。

まずは、個人による「譜読み」です。譜読みとは楽譜を読んで、自分のパート（役）を歌えるようにすることです。原語上演（「ラ・ボエーム」はイタリア語）の場合は、その言葉の発音や意味も勉強しなければなりません。オペラの場合は他の出演者との掛け合いもあるので、譜読みをしっかりとしないと他のメンバーに迷惑をかけてしまいます。

譜読みができた段階で、次は「音楽稽古」になります。ここからは、出演者が一緒にそろって練習します。オペラの場合は出演者が多いので、稽古場もピアノがあつてある程度の広さも必要です。我々の場合は主に宇都宮市内の生涯学習センターの練習室をお借りして練習しています。

普通、「音楽稽古」は指揮者が中心になって進められますが、今回の「ラ・ボエーム」はハイライトでオーケストラも合唱もなく、主な出演者も8名と少なかったため、指揮者なしで行うこととなりました。その結果、テンポや歌い出しのタイミング、間の取り方、強弱などの表情付けなど、歌手とピアニストで相談しながら稽古を進めることとなりますのでこれはこれで大変です。オーケストラ伴奏の場合は、楽器奏者は舞台下のオーケストラピットで演奏しますので、どうしても指揮者が必要ですが、今回はピアノも歌手と同じステージ上に配置されることになりましたので、指揮者なしでも歌手とピアニストのコンタクトが取りやすいのです。(それにしても、オペラの長い作品を一人で弾いてしまうピアニストはすごい!) なお歌手は次の「立ち稽古」に備えて平行して暗譜も行っています。

次はいよいよ「立ち稽古」です。ここからは演出家の登場となります。演出家は映画で言うと映画監督のようなものです。まずオペラ全体の演出プランを立てます。「立ち稽古」では、そのプランに沿って歌う時の立ち位置を決めたり歌手への細かい演技指導を行ったりします。



歌うときの立ち位置の確認



ウエイター役への演技指導

一方、歌手達が稽古を進めるのと同時進行で、スタッフさん達との打合せが進められます。オペラでは、お客さんから見えないところで多くのスタッフが裏方として活動しています。このような方達がいる初めてオペラの上演ができるわけです。(大きな公演になると、出演者、スタッフ併せて100名以上の人に関わることもあります。オペラの上演は正に全員の共同作業の賜物なのです。裏方の皆様に感謝！！)

③仕込み・場当たり・GP・本番

本番前日(6/2)、公演会場である宇都宮市文化会館小ホールでは、仕込みと場当たり、ゲネプロ(GP)が行われました。「仕込み」とは会場に大道具や小道具等を搬入し、オペラの舞台をつくることです。ここで活躍するのが舞台監督を中心とした舞台担当の方々が、大がかりな舞台の場合は、彼らが大工さんのようにセットを組んでいきます。

仕込みでもう一つ大切なのは、照明です。演出家の演出プランに沿って照明も決められます。劇場の舞台にはスポットライトやシーリングを始めいろいろな種類の照明装置があり、それを組み合わせることにより舞台を昼にも夜にも雪にもすることができます。特に今回の公演の目玉の一つに「プロジェクション・マッピング」の活用があります。これは高出力のプロジェクターを使って舞台にいろいろな映像を映せるすごいシステムです。



19世紀のパリの街並み(第1幕)



夜の街のカフェ(第2幕)



雪の街(第3幕)



アパートの屋根裏部屋(第4幕)

このシステムを使えば、舞台を簡単にいろいろな場面に変えることができ、仕込みも楽です。舞台の仕込みが終わると次は「場当たり」です。場当たりとは出演者が舞台上で立ち位置や

動きを確認することです。実際の舞台は稽古場とは広さが違うので、リハーサルの前に舞台で確認します。

いよいよGP（ゲネプロ）、つまり本番通りに演奏するリハーサルが始まります。本番前の最終チェックを行うわけです。出演者は本番と同じ衣裳を着け、メイクもして演奏します。

余談ですが、オペラや演劇の役者は、男も女もどぎついほどのメイクをします。これは、一つには役の年齢相応に見せる（化ける）ためもありますが、もう一つは素顔のまま舞台に立つと、照明があたったときに顔がボヤーンとしてお客さんから見づらいという理由もあります。

GPについては、こんな失敗談もあります。以前、別のオペラに出演した際、旅の僧役の私が海辺の砂浜で老婆役の人とぶつかってこけてしまうという芝居をするはずが、GPでうまくぶつかることができずに指揮者にすごく叱られたことがありました。実は、その舞台が稽古場とは違って八百屋（舞台奥に向かって高くなっていく斜めの舞台）になっていたためうまく歩けず、ぶつかるタイミングと音楽のタイミングが合わなかったのです。（相手役の方とは、もし本番でもぶつかれなかったら、その場で2人ともすべってころんでしまおうと密かに決めておいたのですが、幸い本番ではうまくぶつかることができ、ほっと胸をなでおろしました。）このようにオペラの上演では何が起こるかわかりません。

さて、話を戻しましょう。GP終了後、演出家から歌手に「ダメ出し」が出ます。「ダメ出し」とは、GPでうまくいかなかった所や修正点を演出家が歌手に指摘することです。ほとんどは口頭で済む微調整ですが、場合によってはその部分だけ練習をし直すこともあります。そして、最後に本番のカーテンコールの段取りをして終了となります。

こうして、いよいよ翌日（6/3）の本番を迎えました。



演出家から「ダメ出し」を受ける出演者



カーテンコールの段取り

○新たな高みを目指して

いかがでしたか？オペラ「ラ・ボエーム」が、いかに多くの時間と労力をかけて準備上演されたかお分かりいただけましたでしょうか？繰り返しますが、オペラは演奏者だけの力でできるものではありません。裏方さんを始めたくさんの人の協力で創り上げられるのです。その間にはいろいろな苦労もありますが、終演後のお客様の温かい拍手で、また、さらなる高みを目指して頑張ろうという気持ちになれます。どうぞ、今後とも「栃木県オペラ協会」に変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

文責：S. O